

貝塚市新庁舎整備事業 市民ワークショップ

報告書



平成 30 年 10 月

- 目次 -

市民ワークショップの目的	1
開催概要	2
第1回市民ワークショップ	3
第2回市民ワークショップ	8
第3回市民ワークショップ	18
市民ワークショップ委員の感想	28
市民ワークショップの講評	29
参加者	30

市民ワークショップの目的

貝塚市の市役所本庁舎は、1965年に建設されてから53年になり、建物や設備の老朽化が進み、耐震強度についても防災拠点施設として必要な強度を満たしていません。また、市民福祉センターや教育庁舎等についても同様に老朽化が進んでいます。そこで、新庁舎が防災拠点として必要な機能を担い、また、市民の利便性の向上を図るため、現在「新庁舎整備事業」に取り組んでいます。

本事業において、新庁舎の考え方の基準となる「庁舎計画」を策定するにあたり、市内各種団体の推薦（12名）及び公募（3名）で選ばれた15名の市民ワークショップ委員の方々から、利用者の立場で新庁舎に求められる機能等について、ご提案をいただく場として「市民ワークショップ」を全3回開催しました。

市民ワークショップでは「現在世代の立場」、「将来世代の立場」それぞれの立場で、未来を見据えた社会のために取り組んでおくべき施策を考える「フューチャーデザイン[※]」という考え方を基本に、「過去、現在、そして将来における貝塚市での暮らし」「その暮らしから市民と市役所の関係」「その関係から新庁舎のあり方」について検討を行いました。

いただいたご意見は、これからの「庁舎計画」策定にあたっての参考とします。

※フューチャーデザインとは

2060年に私たちの年齢である人々（「将来世代」と呼ぶこととします。）は幼少であり（まだ生まれていない？）、残して欲しいものがあったとしても、今、それを表明することができません。

人口減少、環境問題など、世代を超えた課題を解決し、将来世代に持続可能な社会を引き継いでいくためにどのような仕組みを考えれば良いのでしょうか。

「現在世代の立場」、「将来世代の立場」それぞれの目線で、社会のために取り組んでおくべき施策を考え、その実践を通じて、新たな社会の構築をめざす取り組みがフューチャーデザインです。

開催概要

市民ワークショップは、下記の日程（全3回）で開催しました。

第1回市民ワークショップ 平成30年7月21日（土）	テーマ 「2060年の貝塚市での暮らしを考える」
第2回市民ワークショップ 平成30年8月25日（土）	テーマ 「市民と貝塚市役所の関係を考える」
第3回市民ワークショップ 平成30年9月22日（土）	テーマ 「新しい貝塚市役所への提案」



第1回市民ワークショップの様子



第2回市民ワークショップの様子



第3回市民ワークショップの様子

第1回市民ワークショップ

■第1回市民ワークショップの開催概要

第1回市民ワークショップのテーマ

「2060年の貝塚市での暮らしを考える」

第1回では、3つのグループに分かれ、「テーマ1：私たちにとって貝塚市とはなんだろう？」
「テーマ2：2060年の貝塚市での暮らしを考える」について話し合いました。

「テーマ1：私たちにとって貝塚市とはなんだろう？」では、各委員が自己紹介を兼ね、これからも引き継いでいきたい貝塚市の「こと」「もの」「できごと」「思い出」について話しました。

次に、ファシリテーターの若本准教授から、「2060年の社会状況等」について説明があり、「テーマ2：2060年の貝塚市での暮らしを考える」では、今から先の未来、2060年の貝塚市での暮らし、2060年の貝塚市に求められるもの、2060年におけるまちづくりへの関わり方について、「フューチャーデザイン」という考え方を基本にして話し合っていたいただき、それぞれのグループから、主な意見を発表していただきました。

<第1回市民ワークショップの流れ>

日 時：平成30年7月21日（土）午後1時～午後4時

場 所：貝塚市役所 職員会館1階 多目的室

参加者：市民ワークショップ委員：15名

開会
ワークショップガイダンス（ファシリテーター：大阪大学大学院 若本准教授）
ワークショップ テーマ1：私たちにとって貝塚市とはなんだろう？ 各メンバーの自己紹介を兼ねて、これからも引き継いでいきたい貝塚市の「こと」「もの」「できごと」「思い出」について話していただきました。
ワークショップ テーマ2：2060年の貝塚市での暮らしを考える 今から先の未来、2060年の貝塚市での暮らし、また2060年の貝塚市に求められるもの、2060年におけるまちづくりへの関わり方について、「フューチャーデザイン」の考え方に基づき、話し合っていたいただきました。 検討項目：子育て、教育、高齢福祉、障害福祉、医療、環境、コミュニティ、文化、交通等
○情報提供「2060年の社会状況等」（ファシリテーター） 2060年の社会状況等を悲観的に予想した場合（シリアスストーリー）と楽観的に予想した場合（ドリームストーリー）について
○2060年の貝塚市の暮らし予想（A、B、Cグループごとで話し合い） シリアスストーリーとドリームストーリーの2つの側面から検討
各グループ意見発表 （グループの発表者）
本日のワークショップのまとめ（ファシリテーター）
閉会

■ 検討結果

各グループで話し合われた検討結果を以下に整理します。

A グループ

ワークショップ テーマ1：私たちにとって貝塚市とはなんだろう？

～これからも引き継いでいきたい貝塚市の「こと」「もの」「できごと」「思い出」～

項目	貝塚市の「こと」「もの」「できごと」「思い出」(キーワードなど)
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサークル ・貝塚子育てネットワーク ・社会教育 ・子育てに関する課題を自分達で解決する。 ・子どもが減っている。
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・海があるため、学校にプールがない。
福祉	—
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎は、いろいろなものが詰まっているものにしてほしい。 ・庁舎は、みんなが集える場にしてほしい。 ・庁舎に大きな会議室が必要。 ・庁舎に残すものと残さないものを考えていく。 ・庁舎から海が見える。
市民活動	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動が活発。 ・活動が繋がっていない。
人・生活・まち	<ul style="list-style-type: none"> ・人がやさしくて住みやすい。 ・あたたかい気持ち。 ・保守的であるが、将来への思いが強い。 ・キーマンになる人がいない。
交通・インフラ	<ul style="list-style-type: none"> ・水間鉄道（なんとか残して将来に引き継いでいきたい。）
土地・自然	<ul style="list-style-type: none"> ・海が近い。 ・二色の浜の活用（道路整備） ・里山再生（せんごくの杜を中心に）
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭り、秋祭り
スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・野球場（プロを育てる。） ・卓球
その他	—

B グループ

ワークショップ テーマ1：私たちにとって貝塚市とはなんだろう？

～これからも引き継いでいきたい貝塚市の「こと」「もの」「できごと」「思い出」～

項目	貝塚市の「こと」「もの」「できごと」「思い出」(キーワードなど)
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育て方（時代が変わってきている。） ・グループで子育てする。 ・子育てサークルの文化
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・災害について学校教育で教えていく。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・市独自の福祉の取り組み ・障害者の運動（話を聞きながらやってくることができた。） ・福祉センター（現在は所属しているが、40年前は所属できなかった。）
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・市長が市民の意見を聞く。（住んでいる人の意見） ・100円のコーヒー（64か所くらい） ・第5次総合計画 ・福祉の取り組み
市民活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動が熱心な地域
人・生活・まち	<ul style="list-style-type: none"> ・人のご縁 ・貝塚市が大好き ・住みやすいまち ・楽しく生活できるまち ・よそから来た人を受け入れてくれる。 ・人柄のよいまち ・新しく住宅開発された地域 ・設備の整った住宅（水洗トイレ、都市ガス） ・市域に飛び地がある。（隣の家同士で住所が違う） ・山手側は人口が減っている。 ・貝塚のまちは細長い形状（海側と山側） ・パークタウン ・伝統的に守られているもの ・災害に強いまち
交通・インフラ	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道の整備が悪い。 ・臨海部の石油基地（堺市から）
土地・自然	<ul style="list-style-type: none"> ・田舎 ・トンボ ・貝塚は地盤がよい。 ・貴重な自然、生き物（ハクセンシオマネキ、ブナの原生林） ・川にアユが泳いでいる。
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・貝塚の成り立ち ・だんじり祭り ・コスモスシアター
スポーツ	－
その他	－

Cグループ

ワークショップ テーマ1：私たちにとって貝塚市とはなんだろう？

～これからも引き継いでいきたい貝塚市の「こと」「もの」「できごと」「思い出」～

項目	貝塚市の「こと」「もの」「できごと」「思い出」(キーワードなど)
子育て	・子育てしやすい
教育	・花育
福祉	・福祉タクシー
行政	・市民の必要なことに取り組むまち ・障害者が参画できるまち
市民活動	・市民が集まって活動する環境が整っている。 ・学ぶ機会、場所、環境が多い。
人・生活・まち	・食べ物がおいしい。 ・山と海があり、まとまりのある地域
交通・インフラ	・水間鉄道
土地・自然	・適度な田舎 ・自然が多い
歴史・文化	・木積、水間 ・孝恩寺（釘無堂） ・水間観音 ・願泉寺 ・重要文化財 ・町家 ・江戸中期 ・別荘、歴史館 ・観光資源 ・まちなかアートミュージアム ・文化財が多い
スポーツ	－
その他	－

ワークショップ テーマ2：2060年の貝塚市での暮らしを考える

項目	ドリームストーリー	シリアスストーリー
	2060年の社会状況等を楽観的に予想した場合	2060年の社会状況等を悲観的に予想した場合
子育て・教育	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の遊び場が増えて子どもが元気になる。 ・働く場所と子育てする場所が近くなっている。 ・貝塚が子育て世代に選ばれるまちとなっている。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが減る。 ・三人兄弟が多かったのが、一人っ子が多くなっている。 ・少子化により、子ども会がなくなっている。 ・子どもの遊び場がなくなり、コミュニケーション能力が下がる。 ・学校の統廃合が進む。等
医療	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症は予防注射で回避している。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院に行けないお年寄りが増える。等 ・医療費がかさむ。等
高齢福祉・障害福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブは賑やかに活動している。 ・それぞれに合った働き方ができるようになっている。 ・補助ロボットが普及している。 ・障害のある方も働く場所や機会が増える。 ・発達障害の研究が進んでいる。 ・誰もが参画する社会になっている。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスを行うヘルパーが減る。等
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティが復活し、お年寄りが元気に生活している。 ・お年寄り子どもをつなぐ仕組みができています。 ・国際交流の会員は増えている。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・お祭りの担い手がいなくなる。 ・地域コミュニティが希薄化し、回覧板がまわらなくなっている。 ・祭りの担い手がいなくなり、他の市町村と協力して行っている。 ・必要のない組織が消滅していく。等
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・海水を真水に変える技術ができている。 ・海がきれいになっている。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・川や海の水がきれいになっているが、きれいになりすぎること生き物が減っている。等
文化・交通・農林水産業	<ul style="list-style-type: none"> ・車が自動運転になっている。 ・水間鉄道は変わらず走っている。 ・農業が法人化している。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財を維持するのが、難しくなっている。等

※参加者から出た意見の一部を類似するテーマ毎に分類し整理しています。

第2回市民ワークショップ

■第2回市民ワークショップの開催概要

第2回市民ワークショップのテーマ

「市民と貝塚市役所の関係を考える」

第2回では、現在から2060年に舞台を移して考えた後、再び現在に立ち戻って、今備えておくべきことは何かを考えました。

具体的には、フューチャーデザインの第2段階として、第1回で話し合った「2060年の貝塚市での暮らし」を踏まえながら、2060年の貝塚市役所とシビックゾーン（市役所、市民文化会館、総合体育館、図書館などを含む一帯）の将来像をまず考え、新しい庁舎計画に活かすべき現時点での考え方を話し合いました。

<第2回市民ワークショップの流れ>

日 時：平成30年8月25日（土曜日）午後1時～午後3時30分

場 所：貝塚市役所 職員会館1階 多目的室

参加者：市民ワークショップ委員：13名

開会
ワークショップの説明
話し合いに向けてのアドバイス（ファシリテーター）
ワークショップ 『市民と貝塚市役所の関係を考える』
プログラム1：2060年の貝塚市役所、シビックゾーンはどうなっている？ ・前回と同じように、2060年の社会的背景を見つめつつ、未来の貝塚市役所とシビックゾーンの「将来像」を考えました。
プログラム2：これからの市役所の役割、市民の関わり方を考える ・2060年から現在に戻り、プログラム1で話し合った「将来像」に向けて、庁舎計画に必要なことは何かを話し合いました。 ・まずは、市役所の役割がどうなっていくか、そこから、市役所と市民の関わり方はどうなっていくかを考えました。
プログラム3：新庁舎に必要なことを考える ・2060年を見据えた市役所の役割、市役所と市民の関わり方を踏まえ、新庁舎に必要な機能やスペースなどを話し合いました。
各グループ意見発表（グループの発表者）
本日のワークショップのまとめ・次回に向けたアドバイス （ファシリテーター、オブザーバー：大阪大学大学院 倉敷教授）
閉会

■ 検討結果

各グループで話し合われた検討結果を以下に整理します。

A グループ

プログラム 1 : 2060 年の貝塚市役所、シビックゾーンはどうなっている？

理想の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所を中心にお祭りなどのイベントが開催されている。 ・あらゆる人々の目的に応えることができる多面性のある場所となっている。 ・子どもを産みやすい、育てやすい「貝塚」となっている。 ・庁舎内に市民が気軽に集える場所がある。(飲食できる、運営は市民で行う、市民の力を最大限に活かす) ・職員が働きやすく、「貝塚で働いている」ことが自慢になるような市役所である。(ハード面、ソフト面共に)
予想	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所の機能が 1 か所に集約されている。 ・地形的にはよい場所なので、あまり変わらない。

※参加者から出た意見を類似するテーマ毎に分類し整理しています。

プログラム 2 : これからの市役所の役割、市民の関わり方を考える

これからの市役所の役割	
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての市民が訪れやすい市役所であるようにする。(バスの便を増やすなど) ・あらゆる人々の目的に応えることができる。 ・この機会に機構改革をする。 ・役所はペーパーレスを目指し、書類の供覧で印を押す作業の時間の無駄を省く。
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・防災面で安全で安心できる備えがある。 ・防災拠点として、高齢者、障害者、子どもが安心して避難できる。(多くの市民を収容できる) ・運営する人(ボランティア)が集まり、しっかり機能する。
市民の関わり方	
市民活動・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に立ち寄れる、いろいろなことができる。 ・市民の協力(団体の協力)がないとできないので、市民は積極的に活動や交流に関わっていく。 ・市役所に来れば、普段の生活のちょっとした困りごとを解決できるようつながりがつくれる場所を市民がつくる。

※参加者から出た意見を類似するテーマ毎に分類し整理しています。

プログラム 3 : 新庁舎に必要なことを考える

機能・スペース	新しい市役所整備に必要なこと						
市民交流	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所の駐車場をイベントに対応できる台数となるよう整備する。 (安心して止められる) ・気軽に立ち寄れる喫茶店がある。 ・いろいろな活動ができる場所がある。 ・最先端のトイレを整備する。 ・貝塚には市民の主体的な活動が多くあるので、それらをつなぐ場所がある。 ・山手、浜手の拠点にも市民が運営するボランティアセンターがあり、拠点と市役所がバス路線でつながっている。(ボランティアが運営している送迎バス。バスの便が多くある。) ・市役所前に噴水があって、そこで子どもが水遊びできるなどの市民が憩えるスペースがある。 ・3階以上が行政サービスエリア、1階または1、2階はコミュニティエリアであり、市民が集える場所となっている。市民がこのエリア全体の運営を行う。 <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;"> <p><喫茶エリア・広場></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が憩える。 <p><コミュニティエリア></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と人のつながり、活動のつながりが生まれる。 <p><地産地消エリア></p> <ul style="list-style-type: none"> ・貝塚産の食材を販売している。 <p><貝塚自慢エリア></p> <ul style="list-style-type: none"> ・貝塚のよいところの情報発信を行える。 </div> <div style="flex: 1; border: 1px solid black; margin-left: 10px;"> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">貝塚自慢エリア</td> <td style="width: 50%;">喫茶エリア</td> </tr> <tr> <td>地産地消エリア</td> <td>コミュニティエリア</td> </tr> <tr> <td colspan="2">広場（噴水がある）</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">1階配置図イメージ</p> </div> </div>	貝塚自慢エリア	喫茶エリア	地産地消エリア	コミュニティエリア	広場（噴水がある）	
貝塚自慢エリア	喫茶エリア						
地産地消エリア	コミュニティエリア						
広場（噴水がある）							
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・1か所で用事が済む場所になる。 ・市役所の機能を1か所にまとめてほしい。(現在はばらばら) ・窓口を集約する。 						
防災機能	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的に利用できる避難スペースがある。 ・災害に強いまちづくりとして、コミュニティの拠点を市役所にする。 (ハード面での防災には限界がある。コミュニティの形成が防災につながる。村社会、町社会に入れない人をサポートできるなど。) ・川の水門が自動的に閉まる。 ・地震に備えた、建物の強度と電源の確保がされている。 ・災害時はボランティアの拠点として活用できるスペースと備えがある。 						

※参加者から出た意見を類似するテーマ毎に分類し整理しています。

B グループ

プログラム 1 : 2060 年の貝塚市役所、シビックゾーンはどうなっている？

理想の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者、高齢者、子どもたち、誰もが使いやすくなっている。 ・ 子どもが集まり、見守る大人で子どもを育てることができるようになってきている。 ・ 貝塚の歴史が全て展示してあり、見てわかるようになってきている。 ・ 市役所に来るために水間鉄道がもっと利用されるようになってきている。 ・ e スポーツなど新しいものに、すぐ対応できるような多機能施設がある。 ・ 教育拠点としての機能（貝塚の自然を生かした体験型）がある。 ・ 未来形の子育てを考えたまちになっている。 ・ 子育て中の女性が働きやすく、住みやすいまちになっている。 ・ 子育て貝塚として目立つ場所になっている。 ・ 市役所に来なくても家庭で手続きができるようになってきている。 ・ 明石海峡大橋が眺望できるタワーができています。 ・ 関西国際空港に近いので、その立地を活かした発信が行われている。 ・ 泉州随一の防災センター（研究、体験施設含む）がある。 ・ 大学の防災研究所がある。 ・ 市役所の地下にグルメゾーンがある。 ・ 広々としたピロティでコンサートを楽しんでいる。（災害時の避難場所にもなる） ・ 水間鉄道が路面電車になって延伸している。 ・ 役所の前は急行が停まる駅になっている。 ・ 二色の浜、葛城山を活かした府内唯一の身近なリゾート地になっている。
解決が必要な姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市役所の機能を集約することで駐車場の問題が起きている。 ・ 公共交通の整備が必要になっている。

※参加者から出た意見を類似するテーマ毎に分類し整理しています。

プログラム 2 : これからの市役所の役割、市民の関わり方を考える

これからの市役所の役割	
市民活動	<ul style="list-style-type: none"> ・組織に縛られない市民の活躍の場を提供する。 ・ホームページなどでもっと市民に情報を発信する。 ・市民を資源として活用し、もっと活躍の場を与える。 ・教育拠点化（歴史図書館、自習室） ・人材を育てていくため、いつでも参加できるボランティアの簡単な登録制度をつくる。 ・市民も巻き込んで、助け合う。
子育て・教育	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援をもっと盛んにする。 ・子育て支援として、市が子どもを迎えに行く。 ・若い母親が働きやすいまちづくり（市立保育園）をする。 ・子どもが SOS を出して、来ることができる場所になる。（子ども食堂のようなもの、市役所が参加） ・障害者教育も子育ての教育に組み込んでいく。
市民の関わり方	
市民活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育ボランティア制度を創設して、市民は市民講師として積極的に登録する。 ・得意分野についての登録制度を設け、余暇時間に活動する。 ・ソフト面で市民と一緒に交流、ボランティアに参加し易くする。 ・市民の日常生活において、行政にお願いしたいことを代理者となって対応できるようにする。（ケアマネージャー） ・全ての市民が年齢に関係なく、働くことができる。

※参加者から出た意見を類似するテーマ毎に分類し整理しています。

プログラム 3 : 新庁舎に必要なことを考える

機能・スペース	新しい市役所整備に必要なこと
防災機能	<ul style="list-style-type: none"> ・防災関連スペースを充実する。平時のスペースは他の利用を行う。 ・災害拠点スペースを設ける。普段は市民向けピロティスペースとして活用する。 ・備蓄品の保管スペース（仮設の部材、水、簡易トイレなど）を設ける。 ・防災用の水を確保する。普段は子ども用のプールとして利用する。
情報発信機能	<ul style="list-style-type: none"> ・モニター、ホームページで今の市役所が見えるようにする。
行政機能	<ul style="list-style-type: none"> ・本庁舎の建物は、各課が各ワンフロアを専有する。 ・市民が将来に関して望んでいる事柄を全ての窓口で受けることができるようにする。 ・市役所組織をもっと柔軟化させる。例えば、なんでも課を創設する。 ・自治会役員を時には専門職員化してもらおう。 ・書類を電子化する。
バリアフリー設備	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者、高齢者、子どもたちが入りやすい施設にする。 ・障害者、高齢者共に使える大きなベッドがあるトイレをつくる。 ・市民の利用が多い課を1階にし、他の課を2階以上にする。 ・福祉センターが入るのであれば、夜間利用があるので、入り口を別にし、警備を充実させる。 ・電動車いすも利用できるよう入口は1m以上にする必要がある。 ・完全バリアフリー化とする。
子育て・教育スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・大型の保育スペース、ブースを設置する。災害時は避難スペースとして利用する。 ・大規模図書館にあるような学習機能、貝塚自然学のスペースをつくる。 ・授乳室も兼ね備えた多目的なトイレをつくる。 ・ボランティア登録のための部署と窓口を設置する。（教育ボランティア）
市民利用スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・将来を見据え、他の機能に使えるよう変化できる部屋、間取りとする。 ・眺望レストランをつくり、防災スペースとしても利用する。 ・地下グルメシティをつくり、お酒を提供する。車利用者が減って、鉄道利用が増える。 ・家に置けない大きな物などをちょっと利用したい際に物を貸出・保管するスペースをつくる。 ・外の前庭をお年寄りが憩えて、公園のように子どもたちも遊べる場にする。 ・イベントなどができるスペースをつくる。 ・駐車スペースを拡充、充実する。（車で親が送迎可能） ・今よりもっと多くの駐車場を確保する。
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・有料トイレを設置する。 ・日本一美しいトイレをつくる。

※参加者から出た意見を類似するテーマ毎に分類して整理しています。

Cグループ

プログラム1：2060年の貝塚市役所、シビックゾーンはどうなっている？

理想の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が集まるような交流スペースが中心のシビックゾーンとなっている。 ・バリアフリーが行き届いた庁舎となっている。 ・市役所は防災拠点として最重要地となる。 ・貝塚市の中で一番安全で命を守る場所となる。 ・万が一の時のエネルギーの確保ができています。 ・子どもが安心して遊べる場所となっている。(セミ採りに来る子どもがいる。今は子どもが遊べる場所が少ない) ・前庭などの周辺に季節の花があふれている。 ・他市から来た人が貝塚のことを知ることができるように貝塚の歴史や特産品を学べるスペースがある。 ・行政手続きだけではない多目的なスペースを設ける。 ・季節の花々は市民ボランティアがお世話し、その活動を通じた横のつながりが出来ている。 ・外国人にも優しい市役所となっている。(貝塚に住む外国人が増えているので) ・レストランや市民が集まる場所等、色々なものがあるような場所になっている。 ・市役所に高級レストラン等が入っている。
解決が必要な姿	<ul style="list-style-type: none"> ・今、重要な施設を集約することが市民にとって利便性があるのか、各地域に役所機能や拠点がある方が便利ではないか。
予想	<ul style="list-style-type: none"> ・高層の建物になっている。

※参加者から出た意見を類似するテーマ毎に分類して整理しています。

プログラム 2：これからの市役所の役割、市民の関わり方を考える

これからの市役所の役割	
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所自身がデイサービスをもつ。 ・子ども連れでも来やすい市役所となる。
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・防災拠点の役割を担う。
市民活動・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・市民交流の場となる。 ・待ち合わせの場所となる。(例えば、「市役所に何時に集合」) ・日常的に利用できる場となる。 ・吸引力のある市役所として、イベントを行うことで市役所自身が発信していき、市民のサロンのような場所となる。 ・子どもの遊び場となる。 ・ボランティアの活動拠点となる。
観光・イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地となり得る市役所。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・専門業務に対応できるプロフェッショナルとして、横のつながりをつくってほしい。
市民の関わり方	
市民活動	<ul style="list-style-type: none"> ・花の世話は市民、取りまとめは市役所が行う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・市長との接点、関わりがますます増える。 ・孤独死のない市にしたい、市民も小さな役割を担う。

※参加者から出た意見を類似するテーマ毎に分類して整理しています。

プログラム 3 : 新庁舎に必要なことを考える

機能・スペース	新しい市役所整備に必要なこと
バリアフリー・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・建物内の通路を広くとり、市民が移動し易くする。 ・滑らない床材を使用する。 ・ハンディキャップのある人に対応できる。 ・どの課にも点字の読み書きができる職員を配置してほしい。
防災機能	<ul style="list-style-type: none"> ・防災機能が整っており、避難できる場所がある。 ・堅固な建物とする。(避難場所) ・いろいろな人に対応できる場所がある。(避難時) ・避難場所を仕切れるよう余裕のある広さとする。(普段は交流スペース) ・太陽光発電など災害時に使えるエネルギー設備を設ける。
子育て・教育機能	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい子どもを連れた子育て世代もゆっくり待つことができる場所を設ける。(ベビーカー、おむつ替えのスペースなど)
情報発信機能	<ul style="list-style-type: none"> ・市民 FM Box (FM ラジオを発信するブース) を市役所内に設置する。
観光機能	<ul style="list-style-type: none"> ・関西空港を活用したオフィスを設置する。 ・高層ビル化し、最上階に観光スペースを設置する。 ・市役所に展望スペース(無料)、飲食ラウンジを併設する。 ・市役所自体が観光拠点(場所)になる。
飲食・物販機能	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎にコンビニを設置する。(市役所ゾーンでいろいろな活動をすると考えられるので飲み物、食べ物を調達できる必要が有る) ・食堂を充実させる。(一般市民も利用できる) ・貝塚の野菜、海の幸を使ったレストランを設置する。(材料、つくった人を明記) ・貝塚のおしゃれなカフェを活用する。(地元の方で) ・屋上庭園カフェを設置する。(展望スペース付き、子育て世代も子どもを連れてゆっくりできるスペース)
市民活動・交流機能	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所を人と顔を合わせる場所にする。 ・各種ボランティアの交流スペースの確保。(多目的サロン化) ・人と人が直接交流する重要な場所とする。 ・体育館を大きなものにする。 ・公民館活動が活発化しているので各公民館に発表の場を設ける。公民館を独立させ、ホールを設置する。 ・玄関にコミュニティ広場となる広いスペース、ホールがある。 ・歴史に詳しい市民に時々、講座を開いてもらう。 ・待つ間も交流できる憩いのスペースがある。 ・外国人の増加に伴う KAIFA (かいづか国際交流協会) の活動場所提供。

行政機能	<ul style="list-style-type: none"> ・市長と市民が関わる場所とする。 ・市長の公約や市政方針を全職員に徹底し、市長は市長、自分たちは自分たちと仕事をするところがないようにする。 ・自分が担当している仕事だけをしているのではなく、関連する部署の仕事も勉強してほしい。 ・職員が各地域に行き、施策などを説明する。 ・来庁者が目的の受付にすぐ行ける分かりやすい市役所とする。 ・待ち時間が少ない市役所とする。 ・マイナンバーの機能を充実させる。 ・誰もが移動しやすいように課の配置を考える。(あっちこっち移動しなくて良いように) ・敷居の高くないオフィスとする。 ・他の行政機関(国や大阪府など)と連携を図る拠点的機能を持たせる。 ・受付にプロのアドバイザーがいる、相談スペースを設ける。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・広い駐車場を設ける。 ・周辺道路の整備を行う。 ・屋上庭園を設置する。(グリーンカーテンのような役割も)

※参加者から出た意見を類似するテーマ毎に分類して整理しています。

第3回市民ワークショップ

■第3回市民ワークショップの開催概要

第3回市民ワークショップのテーマ

「新しい貝塚市役所への提案」

第3回では、第2回で話し合った内容を整理した「提案シート」に、これまでの話し合った内容をふりかえりながら、自分たちの考えや提案内容が盛り込まれているかを確認し、最後に提案内容を表す「提案コンセプト」を決め、市長への発表を行いました。

<第3回市民ワークショップの流れ>

日 時：平成30年9月22日（土曜日）午後1時～午後3時30分

場 所：貝塚市役所 職員会館1階 多目的室

参加者：市民ワークショップ委員：13名

開会
ワークショップの説明 話し合いに向けてのアドバイス（ファシリテーター）
ワークショップ 『新しい貝塚市役所への提案』をまとめよう！
プログラム1：提案シートの確認と提案コンセプトの決定 <ul style="list-style-type: none">・グループごとに、提案シートに整理された提案内容について、これまでの話し合いで出された意見や考え方が盛り込まれているか、適切に整理されているかを確認しました。・意見の追加や整理方法の変更がある場合は、グループ内で話し合い、決定しました。・新しい貝塚市役所の整備に向けた「個人の想い」をワークショップの感想と一緒に考え、発表に備えました。
各グループから提案内容を発表 <ul style="list-style-type: none">・各グループ全員の参加により、発表を行っていただきました。・発表とあわせて、委員の皆さまから、感想を話していただきました。
市民ワークショップのまとめ（ファシリテーター、オブザーバー）
閉会

■ 検討結果

各グループで話し合われた検討結果を以下に整理します。

Aグループ

〈HOT(ほっと)な庁舎〉 〈市民がつかえる庁舎〉 〈災害に強い庁舎〉の3つの提案から、コンセプトは『つながりて市民が元気になる庁舎』に決まりました。提案として、市民が訪れたくなる場所、集える場所がある、などがありました。また、2060年の貝塚市のイメージは、地域コミュニティが復活し、市民全員が元気なまちになっているなどの意見がありました。

新庁舎整備に向けて、市民ワークショップからの提案

新庁舎整備に向けて、市民ワークショップからの提案 Aグループ

提案コンセプト

『つながりて市民が元気になる庁舎』

HOTな庁舎

市民がつかえる庁舎

災害に強い庁舎

〈HOT (ほっと) な庁舎〉

- 市民が訪れたくなる場所、集える場所がある
- さまざまな用途に対応できる場所がある
 - ・ 貝塚自慢エリア
 - ・ 地産地消エリア
 - ・ 喫茶エリア
 - ・ コミュニティエリア
 - ・ 市民が憩える広場
- 市民が集い活動していく場所を市民自らが運営していく 等

〈市民がつかえる庁舎〉

- 訪れやすい庁舎
- 役所の機能が集約されている
- 日常のあらゆる問題が解決する場所 等

〈災害に強い庁舎〉

- 災害に対する備えがある
- コミュニティの形成による災害に強いまちづくり 等



提案コンセプト

『つながりで市民が元気になる庁舎』

HOTな庁舎

市民がつかえる庁舎

災害に強い庁舎

テーマ1 ほっと HOTな庁舎

市民が訪れたい場所、集える場所がある

- 気軽に立ち寄れる喫茶店がある
- 貝塚には市民の主体的な活動が多くあるので、それらをつなげられる場所がある
- 山手、浜手の拠点にも市民が運営するボランティアセンターがあり、バス路線でつながっている（ボランティアが運営している送迎バス）
- 3階以上が行政サービスエリア、1階または1、2階はコミュニティエリアであり、市民が集える場所がある

さまざまな用途に対応できる場所がある

- 市役所の駐車場をイベントに対応できる台数となるよう整備（安心して止められる）
- いろいろな活動ができる場所
- 最先端のトイレを整備

未来の貝塚市のイメージ

- 貝塚を愛する市民が多いまち
- 地域コミュニティが復活して、市民全員が元気なまち

庁舎1階の配置イメージ

貝塚自慢エリア 貝塚のよいところの情報発信が行える場所	喫茶エリア 市民が憩える場所
地産地消エリア 朝市が毎日開催される	コミュニティエリア 人と人、活動のつながりが生まれる場所

広場（噴水がある）
市民が憩える場所

市民の関わり方

- 市民が集い活動していく場所を市民自らが運営していく

テーマ2

市民がつかえる庁舎

訪れやすい庁舎

- 全ての市民が来やすいよう、バスの便を増やすなどの交通面でのサポートがある
- 市民が気軽に立ち寄れる場所である

役所の機能が集約されている

- 市役所の機能が一か所にまとまっている
- 窓口が集約されている
- 山手、浜手地域にも拠点があり、市役所とバス路線でつながっている（バスの便が多くある）

日常のあらゆる問題が解決する場所

- 困りごとの相談
- 人々のあらゆる目的に応えられる
→役所の機能で対応
→市民のつながりで対応

未来の貝塚市のイメージ

- 子どもを産みやすく、育てやすいまち
例）働く場所と子育てをする場所が近い
- 庁舎を中心に祭やイベントが開催され、活気のあるまち

市民の関わり方

- ボランティアなどの市民の団体が市民の移動をサポートする
- 市民が気軽に立ち寄れる場所の運営を市民が行う
- 普段の生活のちょっとした困りごとを解決できるようつながりがつくれる場所を市民がつくり、運営していく

テーマ3

災害に強い庁舎

災害に対する備えがある

- 防災拠点として、高齢者、障害者、子どもが安心して避難できる場所である（多くの市民を収容できるスペースがある）
- 多目的に利用できる避難スペースがある
- 地震に備えた建物強度と電源が確保されている
- 災害時はボランティアの拠点として活用できるスペースと備えがある

コミュニティの形成による災害に強いまちづくり

- 災害に強いまちづくりとして、コミュニティの拠点を市役所にする（ハード面での防災には限界があり、コミュニティの形成が防災につながるため）
- 村社会、町社会に入れなかった人をサポートできる

未来の貝塚市のイメージ

- 災害に強く、安全で安心できるまち
- 異世代交流が地域ごとにできるまち
- 人のあたたかさを活かしたまちづくりが展開されるまち

市民の関わり方

- 災害時には、市民一人一人が声を掛け合いながら避難できるような、地域コミュニティの形成を目指す
- 各自治会でお年寄りの集まる機会を増やすことで、子どもからお年寄りまでの市民が地域コミュニティに参加できるようにする

Bグループ

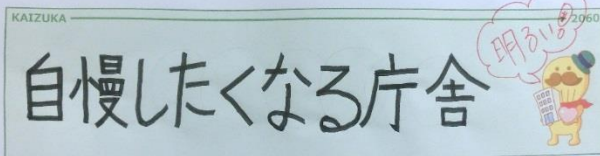
＜全世代 自然と集まる「シティホール」＞ ＜やさしさも使い勝手も良い「ホーム」＞ ＜安心・安全・安定の魅力あふれる堅固な「オフィス」＞の3つの提案から、コンセプトは、『**自慢したくなる庁舎**』に決まりました。提案として、貝塚の歴史・文化を展示し、情報発信するスペース、などがありました。また、2060年の貝塚市のイメージは、子ども、高齢者、障害者、みんなに配慮されたまちになっているなどの意見がありました。

新庁舎整備に向けて、市民ワークショップからの提案

新庁舎整備に向けて、市民ワークショップからの提案

Bグループ

【提案コンセプト】



提案1：全世代自然と集まる「シティホール」

提案2：やさしさも使い勝手も良い「ホーム」

提案3：安心・安全・安定の魅力あふれる堅固な「オフィス」



＜全世代 自然と集まる「シティホール」＞

- 子育て世代が気軽に訪れ、集まり、交流する場
- 市民活動の場をつくり、交流を支援する場
- 誰もが楽しく学び、貝塚への愛着を育てる場 等

＜やさしさも使い勝手も良い「ホーム」＞

- 誰でも使いやすい設備・機能
- わかりやすい表示案内、移動しやすい庁舎

●誰でも利用できる公園のような広場 等

＜安心・安全・安定の魅力あふれる堅固な「オフィス」＞

- 防災拠点としての庁舎
- 平時は防災スペースを市民スペースとして利用
- 泉州地域の防災モデルとなる庁舎
- 民間オフィスのように快適で魅力的な執務空間

(貝塚市役所で働きたいという優秀な人材の確保) 等

Bグループ 提案シート

【提案コンセプト】

KAIZUKA → 2060

自慢したくなる庁舎



明るい!

提案1：全世代 自然と集まる「シティホール」

提案2：やさしさも使い勝手も良い「ホーム」

提案3：安心・安全・安定の魅力あふれる堅固な「オフィス」



提案 1

全世代 自然と集まる「シティホール」

キーワード
子育て、教育、交流、集う

【2060年のまちの姿】



【市民の関わり方】



【新庁舎のイメージ】

★子育て世代が気軽に訪れ、集まり、交流する場

子どもを連れて気軽に訪れることができる窓口 周辺のキッズコーナー・スペース	子育て世代が利用しやすいトイレ、授乳室	子どもが集まり、見まわる大人が面倒をみることができる場所
--	---------------------	------------------------------

★市民活動の場をつくり、交流を支援する場

市民みんなが利用し、イベントも開くことができる交流ひろば・スペース	組織にしがたれない市民の活躍の場	地下にグルメゾーンを設置し、食事をしながら親睦	ボランティア登録のための部署と窓口の設置
-----------------------------------	------------------	-------------------------	----------------------

★誰もが楽しく学び、貝塚への愛着を育てる場

貝塚の歴史・文化を展示し、情報発信するスペース	登録制の教育ボランティアが、講座や教室を教えるスペース	図書館にあるような学習機能、貝塚自然学のスペース	公民館のようなギャラリー・展示スペース（クラブ活動の発表の場）
-------------------------	-----------------------------	--------------------------	---------------------------------

提案
2

やさしさも使い勝手も良い「ホーム」

キーワード
福祉、バリアフリー、憩う

【2060年のまちの姿】



【市民の関わり方】



【新庁舎のイメージ】

★誰でも使いやすい設備・機能

完全にバリアフリー化された設備・機能	子ども、お年寄り、障害者が誰でも使いやすいトイレ	障害者、高齢者に配慮したベッドがあるトイレ	日本一美しいトイレ
--------------------	--------------------------	-----------------------	-----------

★わかりやすい表示案内、移動しやすい庁舎

移動の負担を考慮し、市民利用が多い課を低層階へ配置	車いすが通りやすい十分な幅、広さを確保した施設
---------------------------	-------------------------

★誰でも利用できる公園のような広場

子ども、お年寄り、障害者が誰でも憩いやすい屋外広場	イベントなどができるスペース
---------------------------	----------------

提案
3

安心・安全・安定の魅力あふれる堅固な「オフィス」

キーワード
防災、災害、平常時利用、守る

【2060年のまちの姿】



【市民の関わり方】



【新庁舎のイメージ】

★防災拠点としての庁舎、泉州地域の防災モデルとなる庁舎

備蓄品(食料、水、簡易トイレ、仮設部材等)の保管スペースを設置	防災用の水を確保し、普段は子ども用プールとして利用	庁舎内のモニターおよびホームページで防災情報を発信	京都大学の防災研究所を誘致
---------------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------

★平時は防災スペースを市民スペースとして利用

防災関連スペースを普段は市民向けの交流スペースとして利用	眺望レストランを設置し、防災スペースとしても利用	市民の憩いのための屋外広場を、非常時は防災広場として利用
------------------------------	--------------------------	------------------------------

非常時には、可動間仕切りなどによって、災害対策関係の部屋に転用可能とするしつらえ	大型の保育スペース、ブースを設置し、災害時は避難スペースとして利用	ピロティでコンサート(災害時には避難スペース)
--	-----------------------------------	-------------------------

★魅力的な職場環境

フリーアドレスなど民間のオフィスのようにし、公務員を志望しなくなるような職場	優秀な人材が集まるような魅力的な職場
--	--------------------

Cグループ

<人がやさしいハートフル庁舎> <連帯と交流が促進する庁舎> <命を守り、命が輝く庁舎>の3つの提案から、コンセプトは、『貝塚の良さが輝くダイバーシティホール』に決まりました。提案として、子ども連れにもやさしい、高齢者にもやさしい、ハンディキャップのある人にもやさしい、などがありました。また、2060年の庁舎のイメージとしては、市民のサロンのような場所、待ち合わせの場所になっているなどの意見がありました。

新庁舎整備に向けて、市民ワークショップからの提案

新庁舎整備に向けて、市民からの提案 Cグループ

提案コンセプト

貝塚の良さが輝くダイバーシティホール

① 人がやさしいハートフル庁舎

② 連帯と交流が促進する庁舎

③ 命を守り命が輝く庁舎



<人がやさしいハートフル庁舎>

- 子ども連れにもやさしい
- 高齢者にもやさしい
- ハンディキャップのある人にもやさしい
- 外国人にもやさしい
- 目的の場所を見つけやすい工夫をする

●待ち時間が少ない市役所とする 等

<連帯と交流が促進する庁舎>

- 市民と市民の交流・連携
- 行政と市民の交流・連携
- 行政と行政の連携 等

<命を守り、命が輝く庁舎>

- 防災の拠点
 - ・防災拠点機能、避難場所機能を担うため、堅固な建物とする。
 - ・ハンディキャップのある人にも対応可能な体制とする。
 - ・災害時に利用可能なインフラを確保する。
- 観光の拠点
 - ・他市から来た人が貝塚の歴史や特産品を学べるスペースを設置する。 等

提案コンセプト

市民のシンボル

美しい市役所

貝塚の良さが輝くダイバーシティホール

① 人がやさしいハートフル庁舎

② 連帯と交流が促進する庁舎

③ 命を守り、命が輝く庁舎

① 人がやさしいハートフル庁舎

キーワード
バリアフリー、使いやすさ、
来庁者へのサポート、多様性

子ども連れにもやさしい

・子ども連れでもゆっくり待つことの出来る場所をつくる

【具体案】 ベビーカー置き場、おむつ替えスペース等の充実

・子どもが安心して遊べる場所をつくる(屋外も含めて)

【ドリム】 セミ捕りも
できる自然豊かなス
ペースがある

【リアル】 子どものコミ
ュニケーション能力が
低下している

【リアル】
子どもの遊び場がない

ハンディキャップのある人にもやさしい

・様々なハンディキャップを抱える人に対応可能な体制づくり
(災害時も含む)

【具体案】 各課に点字対応可能な職員を配置

・あっちこっち移動しなくて良い課の配置

・福祉タクシーの導入

【ドリム】 誰もが参画で
きる社会になっている

やるべきこと
をやる

外国人にもやさしい

・増加する外国人居住者にも対応可能な体制づくり

【ドリム】 外国人にも優し
い市役所となっている

高齢者にもやさしい

・高齢者を支えるサポート機能を設置する

【具体案】 市役所にデイサービス機能を設置

【具体案】 市民と協力した孤独死防止対策の実施

施設全体に共通

・広い通路幅や滑らない床材を使用する

・目的の場所を見つけやすい工夫をする

・待ち時間が少ない市役所とする

・エスカレーターを設置

【ドリム】 バリアフリ
ーが行き届いた庁舎
となっている

② 連帯と交流が促進する庁舎

キーワード
交流、連携、市民参加、市民活動、横のつながり、日常利用

市民と市民の交流・連携

・イベントスペースをつくる

【具体案】 体育館を拡張する
ホール機能を設ける

今ある他施設も
生かせるように
すべき

【ドリーム】 市民が集まる交流
ハブが中心となっている

【具体案】 集客力のある市役所主体イベントを開催する
歴史に詳しい市民に時々講座を開いて貰う

【具体案】 各地域の公民館にも
ホールを設ける

【シナジー】 重要な施設の集約に
より各地域の利便性が低下

・待つ間も交流できる憩いのスペース をつくる

【ドリーム】 市民のサロン
的な場所になっている

【ドリーム】 待ち合わせ
場所となる市役所

・市民が管理に関わる場所をつくる

【具体案】 市民が共同管理する花壇

・日常的に通える機能を設ける

【具体案】 レストラン・食堂
⇒貝塚の野菜や海の幸を使用する
⇒展望レストラン、広場

【ドリーム】 管理を通して横
のつながりができている

【具体案】 コンビニ

⇒イベントや活動で訪れた人が飲食物や文具等を調
達可能に

・市民活動拠点をつくる

【具体案】 各種ボランティアが活動・交流できるスペース
市民 FM を設置する

【ドリーム】 老人クラブや国際交流
協会が賑やかに活動している

行政と市民の交流・連携

・市役所と市民が顔を合わせ、協力出来る場 所とする

【具体案】 祭り等の地域活動を市役所と
地域が協力して維持していく

【シナジー】 子供会や祭
りの担い手が不足

【具体案】 市民も小さな役割を担い、孤
独死を防止

【ドリーム】 一人暮らしのお年寄りと子
どもをつなぐ仕組みができている

・市長と市民が関わる場をつくる

・市民が相談できるアドバイザーを設置する

【シナジー】 各活動のリー
ダーが不足している

・肩肘張らないフランクなオフィス空間とする

・庁舎エリアだけに留まらず各地域に職員が出
向くことも大切 (施策を説明する等)

行政と行政の連携

・市長と各部署の連携がとれるオフィス とする

⇒市長の公約や方針を職員が理解し、
統一された行政を展開

・各課間が連携しやすいオフィスとする
⇒課間の横のつながりを強化し、連携
及び相互の業務理解を深められるよ
うにする。

・他の行政機関(国や府)との連携拠点機 能を設置する

指令塔として集約
することは大切

③ 命を守り、命が輝く庁舎

キーワード：拠点、防災、非常時、
災害対応、避難、インフラ、
観光、景色、地域情報、発信

防災の拠点

・防災拠点機能、避難場所機能を担うため、堅固な建物とする

【ドリーム】 市役所が貝塚
市の中で一番安全な場
所となっている

【ドリーム】 地震が起きても
安心して居ることができ
るまちになっている

・ハンディキャップのある人にも対応可能な体制とする

【ドリーム】 バリアフリーが行き
届いた庁舎となっている

・避難場所となる広い空間を確保する

【具体案】 普段は交流スペースとして活用する
プライバシー確保のため、適宜仕切れる工夫をする
避難場所はエネルギーが使えなくなった場合も考え、
夏は空調無しでも暑くなりすぎない建物とする

・災害時に利用可能なインフラを確保する(太陽光等)

【具体案】 発電機を2階に設置

【ドリーム】 万が一のときのエネ
ルギーが確保された庁舎にな
っている

観光の拠点

・最上階に展望スペース(無料)や飲食スペースを設置する

【具体案】 展望レストランや飲食ラウンジ

【ドリーム】 市役所が高層
の建物になっている

観光する上で
関西空港-水間観音の
中間地点なので便利

・他市から来た人が貝塚の歴史や特産品を学べるスペースを設置 する

・関西空港との距離を活かしたレンタルオフィスを設置する

市民ワークショップ委員の感想

各グループ発表と合わせて、委員の皆様からワークショップ全体を通しての感想を話していただきました。以下に、感想の一部を紹介します。

市民ワークショップ委員の皆様感想

～市民ワークショップに参加して～

- ・ 40年後に庁舎がどうなっているか、確認してみたいです。
- ・ 家では、子どもと40年後について、どう思うか話していました。今回の報告を多くの市民に読んでいただけたらと思います。
- ・ 40年後を見届けたいと思います。素晴らしい市役所を期待しています。
- ・ 貝塚のことを学ぶのが楽しかったです。
- ・ 知らなかった貝塚の歴史や皆様の貝塚に対する思いにふれて、もっと貝塚のことを好きになりました。
- ・ 庁舎に愛称をつけたらどうでしょうか。
- ・ 広く市民から意見を聞いて、新庁舎整備に取り組むことは良いことだと思います。40年先も今と同じ新鮮さで、市役所に期待できるよう実現してほしいです。
- ・ 貝塚は、みんなの顔を見ることができるといいサイズのまちだと思います。今回参加して郷土愛が芽生えたように思います。
- ・ ワークショップに参加することが決まり、市役所について勉強してきたことが収穫です。グループのメンバーとの出会いにも感謝しています。

市民ワークショップの講評

ファシリテーター

若本 和仁准教授（大阪大学大学院工学研究科 環境・エネルギー工学専攻）

「新市庁舎計画における市民ワークショップの役割」

現市庁舎は 1965 年に竣工しました。

それから 53 年。

市庁舎の役割も大きく変わり、新市庁舎には次の数十年を見据えたコンセプト（市役所だけで考えられるものではありません）が求められました。

この課題に 15 名の市民が取り組み、貝塚市への愛着の醸成と幅広い交流・連携を育む場としての市庁舎像等の、素晴らしい提案が作成されました。

この提案が礎となり、市民・職員に長く愛される新市庁舎が実現することに期待します。



オブザーバー

倉敷 哲生教授（大阪大学大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻）

「フューチャー・デザインを用いたワークショップ」

フューチャー・デザインに基づき新市庁舎のコンセプトを検討する全国初の取組みに対し、貝塚市の皆様が悩みながらも真剣にご議論された姿に敬意を表します。

40 年先のまだ見ぬ世代の想いに寄り添い、自身のこれまでの経験を重ねて提案された市庁舎像は、市民参加型の自治体行政の推進に大きく寄与するでしょう。

やがて、「40 年前の先輩方は我々の想いを汲み取り市庁舎を考えてくれた。我々は深い愛に包まれていたのだ」と想われる日々が来ると信じています。



参加者

ファシリテーター 若本 和仁准教授

(大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻)

オブザーバー 倉敷 哲生教授

(大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻)

※敬称略

グループ	氏名	備考	
A	生長 奈緒美	パラリンピック競技大会日本代表選手 (北京、ロンドン、リオデジャネイロ)	公募
	朝日 陽子	貝塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進女性会議	団体推薦
	東村 一夫	貝塚商工会議所	団体推薦
	西出 進	岸和田人権擁護委員協議会貝塚市地区委員会	団体推薦
	矢倉 吉美	貝塚市民生委員・児童委員協議会	団体推薦
B	藤浦 淳	新聞記者	公募
	富樫 佳織	貝塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進女性会議	団体推薦
	和田 明宏	貝塚市町会連合会	団体推薦
	藤原 千里	貝塚市障害者児団体連絡会	団体推薦
	田村 善貞	貝塚市医師会	団体推薦
C	天野 英子	フラワー講師、花育インストラクター	公募
	高巢 幸三	かいづか国際交流協会	団体推薦
	岡本 俊彦	貝塚市老人クラブ連合会	団体推薦
	井上 誠一	貝塚市障害者児団体連絡会	団体推薦
	横田 久一	貝塚市消防団	団体推薦



提案発表後の市民ワークショップ委員 集合写真



貝塚市新庁舎整備事業 市民ワークショップ
報告書

平成 30 年 10 月

貝塚市 総務市民部 総務課